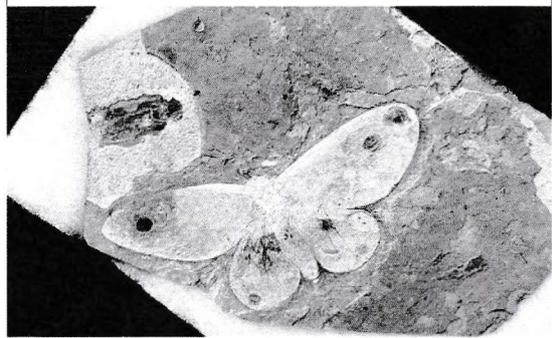


世界に20体ぐらいと言われるチョウの化石



化石は「神の彫刻」

西の京病院 第7回世界の化石展

医療法人康仁会西の京病院(奈良市六条町)は22、28日、「第7回

世界の化石展」を同病院4階メビウスホールで開催する。展示時間は午前10時～午後5時(22、23日は午後1時～5時)。なお、22日と28日午後1時から、化石ドクターとも称される高比康臣理事長による化石の説明会も行われる。

今回のテーマは「化石は太古の記憶、神の彫刻である」。夏休み期間ということで、肉骨格を持たず空中を飛び回り、化石になりにくいとされる昆虫を展示する。なかでもジュラ紀(約1億9960万年前～約1億4550万年前)のチョウの化石は世界に20体ぐらいと言われる貴重なものだ。

高比理事長は化石から未来を読み解く「ドクター」として地元情報誌などに取り上げられている。小中学生の頃からハンマーを握りしめ、化石採取をしていたという。「生命は何十億年も前から受け継がれたもの。太古の生命の記憶をとどめる化石は、人間に謙虚な思いを呼び起こしてくれる『神の彫刻』と話している。

1億年以上前のアメンボも

西の京病院で「世界の化石展」



奈良市六条町の西の京病院で、「第7回世界の化石展(昆虫編)」が開かれている。写真。28日まで、入場無料。

会場には、同病院の高比康臣理事長の化石コレクションのうち昆虫の化石約60点が展示されている。中には1億年以上前の全長18センチもあるアメンボや、巨大バッタ、珍しいチョウの化石などが並んでいる。

奈良市の小学4年、石田凌大君(10)は「昆虫は好きだけど、化石で見たのは初めて。化石で残ってるなんてすごい」と話していた。

昆虫希少種など並ぶ

西の京病院で「世界の化石展」



多くの人が詰め掛けた昆虫化石などの説明会＝22日、奈良市六条町の西の京病院

珍しい昆虫化石などを展示する「世界の化石展」化石は太古の記憶、神の彫刻である」が22日、奈良市六条町

の西の京病院(高比康臣理事長)の4階メビウスホールで始まった。今年で7回目。高比理事長はあいさ

つで「毎年違うテーマで化石展を開いているが、今年は夏休みに合わせて大変珍しいジュラ紀、白亜紀の世界の

昆虫を展示した」と紹介した。また説明会で「花の咲かない裸子植物がほとんどだったジュラ紀は昆虫の化石が極めて少ない。今回展示したトンボは日本で1体だけ。このタテハ蝶も超希少種」と説明した。高比理事長は15年前からドイツ、カナダなどを訪れ、化石を収集している。会場にはセミやコオロギ、カゲロウ、アメンボウ、ゲンゴロウなどの化石約70点が展示されている。

化石展は28日まで(日曜・午後1～5時、平日・午前10時～午後5時)。無料。問い合わせは同病院、電話0742(335)1121。